

山の日情報

(第 26 号)

令和2年8月24日

秋田県生活環境部
自然保護課

【活動記録】

7月18日に湯沢市の高松岳登山道（泥湯コース）において、ボランティアによる登山道整備を行いました。今年2回目のボランティア作業となります。

この日は湯沢山岳会の方々など、17名が活動に参加してくださいました。気温も高すぎず、天候にも恵まれ、まさに登山日和です。登山口付近にある泥湯温泉の硫黄の香りを感じつつ、活動をスタートさせました。

今回の活動は登山道の整備ですが、きれいで安全な道にしていくため、その作業内容は多岐にわたります。今回は主に次のような作業を行うこととしていました。

- ①刈り払われた草を脇に寄せる
- ②ごみ拾い
- ③倒木の処理
- ④雨水の流れる道をつくる作業
- ⑤古くなった標柱の交換

当初は、①と②でそれなりの作業量を予想していたのですが、刈払いが非常にきれいに行われていたことと、捨てられているごみがほとんどないことから、実際はそれほどの作業量はありませんでした。

ごみが少ないことに関して、登山者ひとりひとりの心がけによりきれいな環境が維持されていることはとても喜ばしいことです。不法投棄は絶対に行ってはならず、今後もマナーが守られていくことを願います。そんなことを考えながら、③、④、⑤の作業にも取り組みました。

【③倒木の処理】

参加者は、通行の支障になる倒木を見つけると、チェーンソーやのこぎりなどで切断し、邪魔にならないところに寄せるなど、的確に処理していきます。

こうした方々の努力により、登山道が歩きやすく維持されているのだと実感する瞬間です。



↑ 倒木を処理する作業 ↑

【④雨水の流れる道をつくる作業】

以前に降った雨の影響か、登山道にはところどころ、水が流れていました。中には、流れてきた葉っぱや小枝が溜まり、水の流れが妨げられているところも見受けられます。

溜まってしまった葉っぱや小枝を取り除き、きちんと雨水が流れる道をつくることで、登山道が浸食されることを防ぎます。



↑溜まった葉などを取り除く

【⑤古くなった標柱の交換】

登山道の要所要所には、「標柱」という、柱状の標識のようなものが設置されています。どちらに進むとどこに向かうのか、あと何kmか、などが書かれた、登山者の道しるべとなるものです。

山中の厳しい環境にさらされているため、登山道の標柱は平地に比べて劣化しやすく、適宜交換する必要があります。参加者は分担して新しい標柱を荷揚げし、現地で組み立てるとともに、古い標柱から盤面を取り外し、新しい標柱に取り付けます。最後に標柱を立て、交換作業は完了です。



↑標柱の交換作業
新しい標柱に盤面を取り付け

下山後は、この事業にご支援をいただいている、明治安田生命保険相互会社秋田支社様よりご提供いただいた飲み物を参加者に配布し、記念写真を撮って解散しました。

作業を通して強く感じたのは、参加者の方々の地元愛です。今回は、チェーンソーやスコップ、標柱などの荷物を持って山に登らなければならぬ重労働でしたが、それをものともせず、作業をしてくださいました。山の環境が維持され、安心して楽しむことができるのも、こうした方々の活動のおかげです。



↑下山後の記念写真

今回は新聞記者の方が同行取材に来てくださり、翌日の新聞に記事が掲載されました。山をきれいに、安全に保つために尽力されている方々にスポットが当たり、嬉しい気持ちになりました。

なお、ボランティア作業は9月にも2回予定しており、公衆トイレの塗装作業を行います。こちらの様子も「山の日情報」で紹介していきたいと思っております。